

Title	第五十六巻第八号-第十二号総目次：昭和三十八年下半期
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1963
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.56, No.12 (1963. 12) ,p.1- 4
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19631201-0097

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

三田学会雑誌 第五十六巻 第八号と第十二号 総目次 (昭和三十八年下半年)

論 説

租税利益説に関する問題——一九五〇年代末の段階における リンダールの解釈について——	高木寿一	八	一	六八五
わが国一八九〇—一九二〇年の出生数と総出生率の推計(完)	安川正彬	八	二一	七〇五
——インフルエンザ死亡数の考慮——				
近世初頭中部ドイツの農村都市、市場町について(二)	寺尾 誠	八	四四	七二八
近世経世済民論の生成について	島崎隆夫	九	一	七八九
ニュー・デール財政の構造分析(二)	大島通義	九	二三	八一
再論『現代大都市論』	奥井復太郎	十	一	八八五
近世初頭中部ドイツの農村都市、市場町について(三)	寺尾 誠	十	一八	九〇二
アメリカ中西部における商業的農業の展開	岡田泰男	十	六一	九四五
労働者政策と社会政策——藤林教授の社会 政策論について——	中鉢正美	十一	一	一〇〇三
独占・寡占下の価格設定と価格の運動(二)——独占価格研 究第二篇——	北原 勇	十一	二二	一〇二四
東南アジア諸国における二重経済構造と一九五〇年代の工業化の進展	川島楊子	十一	八〇	一〇八二
ガリアにおけるコロヌス制度	宇尾野 久	十二	一	一一五五
経済統合(とくにEEC)の通貨・金融的側面と内外均衡	深海博明	十二	二一	一一七五

武蔵国埼玉郡における地主経営——統幕末期在方——市場の諸問題—— 佐々木陽一郎 十二 五一—二〇五

資料・研究ノート

ブルードンの連邦主義の成立過程について——序説的な試み—— 後藤修三 八 八〇—七六四
わが国製糸業の歴史的展開と戦前・戦後の構造変化(一) 尾城太郎丸 九 五〇—八三八
——製糸業の「体質改善」問題の歴史的背景——
「現代思想入門」における近代主義批判によせて 田中明 九 六八—八五六
戦後ヨーロッパ経済史の基本性格 渡辺國廣 十 八六—九七〇
戦前における企業別労働組合の発生要因をめぐって 小松隆二 十 九六—九八〇
一八六四年から一八六六年に至る第一インターナショナルの 飯田鼎 十一 一一二—一一四
総務委員会にかんする史料(その一) 尾城太郎丸 十一 一二五—一二七
わが国製糸業の歴史的展開と戦前・戦後の構造変化(二) 川島楊子 十二 七六—一二三〇
——製糸業の「体質改善」問題の歴史的背景——

学 界 展 望

イギリス労働運動史研究の最近の動向——労働史研究会の活動について—— 飯田鼎 八 九三—七七七

書 評

守田志郎著『地主経済と地方資本』 高山隆三 九 七五—八六三

『現代帝国主義講座』(全五巻)——国家独占資本主義の理論問題をめぐって—— 飯田裕康 九 八〇—八六八
〔寄稿〕『資本論』の方法と「伝統」——飯田裕康氏の批評にたいする一つの反論—— 桜井毅 九 八六—八七四
デイトリッヒ・アイヒホルツ著『一八四八年の鉄道史における ユンカーとブルジョアジー』 飯田鼎 十一 一〇七—九九一
デレイビッド・ワイトマン著『アジアにおける経済協力への歩み』——国際連合アジア極東経済委員会—— 深海博明 十一 一四〇—一二四二
島崎晴哉著『ドイツ労働運動史——根源と連続性の研究——』 飯田鼎 十二 八八—一二四二

新 刊 紹 介

ブロック著英訳版『封建社会』 渡辺國廣 八 九九—七八三
高梨幸男著『自然法と民主主義の思想構造——ロック研究序説——』 野地洋行 八 一〇〇—七八四
西岡久雄著『立地と地域経済——経済立地政策論——』 高橋潤二郎 八 一〇一—七八五
宇野弘藏著『経済学の方法』(経済学セミナー(1)) 飯田裕康 八 一〇二—七八六
高橋哲夫著『安積開拓史——ある偉大な遺産——』 小松隆二 八 一〇三—七八七
大河内一男著『労働組合』 飯田鼎 九 九二—八八〇
社会経済史学会編『近代企業家の発生』 渡辺國廣 九 九三—八八一
宮川透・中村雄二郎・古田光編『近代日本思想論争』 野地洋行 九 九四—八八二
大河内一男編集・解説『社会主義』——現代日本思想大系15—— 小松隆二 九 九五—八八三
山中篤太郎著『イギリス労働運動小史——労働運動の理解のために——』 飯田鼎 十一 一一二—九九六
岡 稔著『計画経済論序説——価値論と計画化——』 加藤寛 十一 一一三—九九七
川田侃著『世界経済入門』 矢内原勝 十一 一一三—九九七

アラン・ウイリアムズ著『財政と予算政策』	古田精司	十一	二四	九九八
S・モルニエ他著『コンミュートの炬火——プランキとブルードン——』	野地洋行	十一	二五	九九九
栗田勇・浜田泰三訳『C・P・ギンドルバーガー著『外国貿易と国民経済』』	深海博明	十一	二六	一〇〇〇
小林昇編『経済学史小辞典』	飯田鼎	十一	二五	一一五三
吉野俊彦著『日本銀行』	飯田裕康	十一	二六	一一五四
館 稔著『人口分析の方法』	安川正彬	十二	九三	一二四七
両角良彦・御園生等・古藤利久三・『産業体制の再編成』	古田精司	十二	九三	一二四七
正田 彬・千種 義人著				
H・シャハト著『イギリス重商主義理論小史』	野地洋行	十二	九四	一二四八
川崎正敏訳				
加藤寛編集『日本福祉国家の条件』	松浦保	十二	九六	一二五〇